

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成31年1月】

■調査概要（データ対象期間：平成31年1月1日～1月31日）

- 調査期間：平成31年1月31日～平成31年2月18日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業20企業、製造業25企業、卸売業15企業、小売業27企業
飲食業17企業、サービス業47企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計151企業>
- 調査項目：1月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

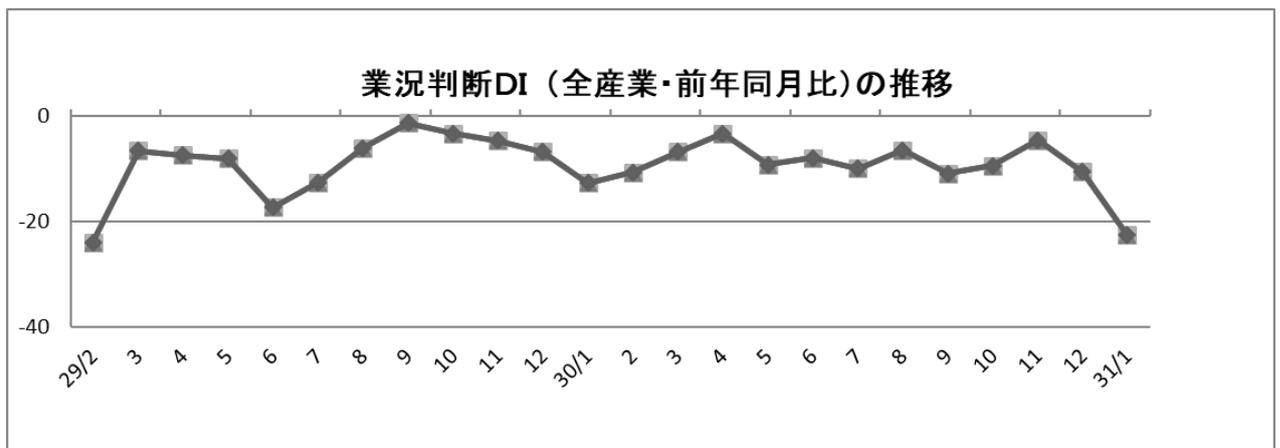
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲10.6）よりマイナス幅が11.9ポイント拡大し、▲22.5となった。業種別では、サービス業はマイナス幅が縮小し、建設業、卸売業、飲食業、製造業、小売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲9.3）よりマイナス幅が14.6ポイント拡大し、▲23.9となった。業種別では、卸売業はマイナス幅が縮小し、サービス業、建設業、小売業、飲食業、製造業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	8.6 (12.7)	60.3 (64.0)	31.1 (23.3)	↘ ▲22.5 (▲10.6)	9.9 (16.7)	56.3 (57.3)	33.8 (26.0)	↘ ▲23.9 (▲9.3)
建設業	5.0 (9.1)	85.0 (77.3)	10.0 (13.6)	↘ ▲5.0 (▲4.5)	0.0 (13.6)	85.0 (68.2)	15.0 (18.2)	↘ ▲15.0 (▲4.6)
製造業	4.0 (9.5)	52.0 (66.7)	44.0 (23.8)	↘ ▲40.0 (▲14.3)	8.0 (19.0)	48.0 (52.4)	44.0 (28.6)	↘ ▲36.0 (▲9.6)
卸売業	6.7 (7.1)	60.0 (64.3)	33.3 (28.6)	↘ ▲26.6 (▲21.5)	20.0 (14.3)	53.3 (64.3)	26.7 (21.4)	↗ ▲6.7 (▲7.1)
小売業	11.1 (18.2)	40.8 (57.6)	48.1 (24.2)	↘ ▲37.0 (▲6.0)	11.1 (21.2)	44.5 (48.5)	44.4 (30.3)	↘ ▲33.3 (▲9.1)
飲食業	17.6 (22.2)	29.5 (44.5)	52.9 (33.3)	↘ ▲35.3 (▲11.1)	17.6 (22.2)	23.6 (38.9)	58.8 (38.9)	↘ ▲41.2 (▲16.7)
サービス業	8.5 (9.5)	76.6 (69.1)	14.9 (21.4)	↗ ▲6.4 (▲11.9)	8.5 (11.9)	68.1 (66.7)	23.4 (21.4)	↘ ▲14.9 (▲9.5)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

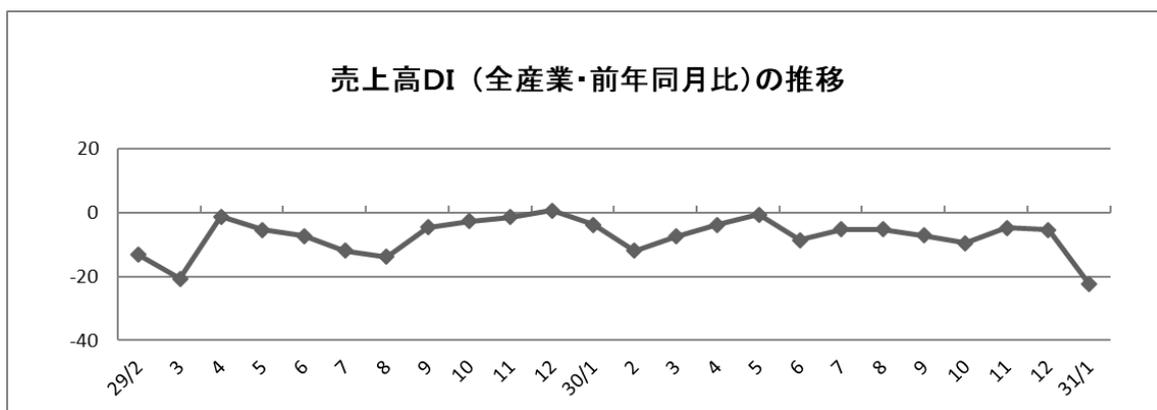


2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲9.4）からマイナス幅が13.1ポイント拡大し▲22.5となった。業種別に見ると建設業は0からマイナスになり、サービス業はマイナス幅が縮小した。製造業、卸売業、小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
全 体	▲ 12.0	▲ 7.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 8.6	▲ 5.3	▲ 5.3	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 4.7	▲ 5.4	▲ 9.4	▲ 22.5
建 設 業	0.0	14.2	16.6	4.6	▲ 4.6	▲ 8.7	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲ 10.0
製 造 業	▲ 4.3	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0	0.0	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 16.6	▲ 19.1	▲ 36.0
卸 売 業	6.7	12.5	7.7	▲ 15.4	26.6	▲ 26.7	▲ 18.2	▲ 30.0	▲ 54.5	▲ 7.2	▲ 38.5	▲ 21.4	▲ 40.0
小 売 業	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 38.7	▲ 8.0	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 10.0	▲ 26.7	▲ 13.4	▲ 6.0	▲ 29.6
飲 食 業	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 21.1	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3
サービス業	▲ 9.5	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3	8.5	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲ 9.5	▲ 6.4

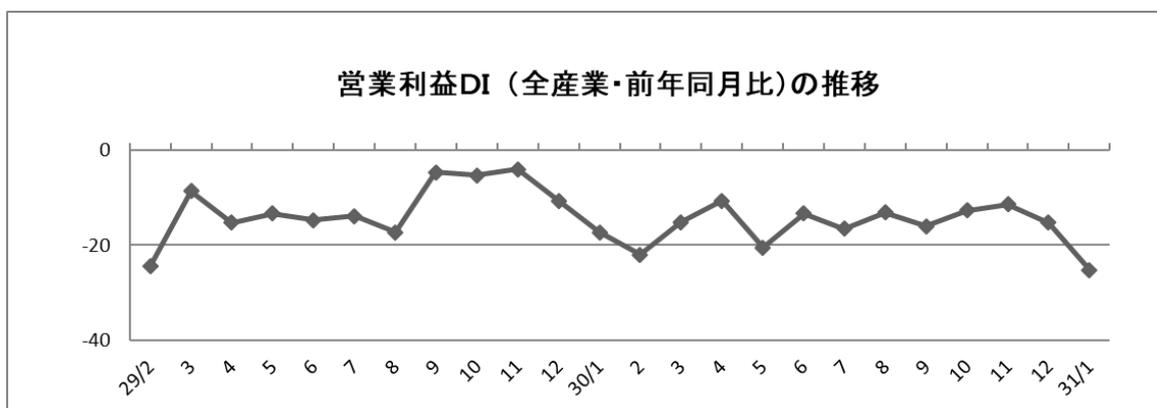


3. 営業利益DI（前年同月比）

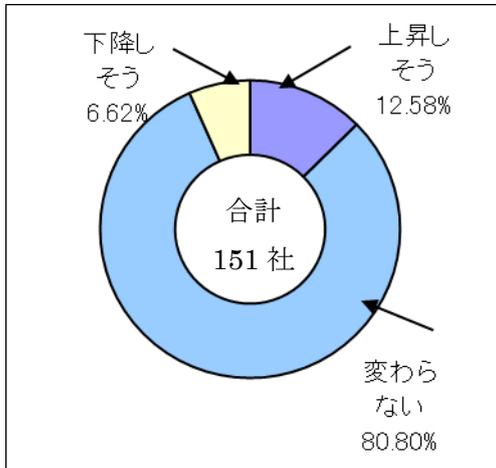
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲15.3）よりマイナス幅が9.9ポイント拡大し、▲25.2となった。業種別に見ると、建設業は0からマイナスになり、サービス業はマイナス幅が縮小した。製造業、飲食業、小売業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
全 体	▲ 17.3	▲ 22.0	▲ 15.1	▲ 10.6	▲ 20.5	▲ 13.3	▲ 16.5	▲ 13.1	▲ 16.0	▲ 12.7	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 25.2
建 設 業	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 21.7	▲ 17.4	▲ 22.7	▲ 12.0	▲ 13.1	▲ 4.7	0.0	▲ 15.0
製 造 業	▲ 4.4	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0	▲ 18.2	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 11.1	▲ 23.8	▲ 32.0
卸 売 業	0.0	▲ 37.5	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 6.6	▲ 6.7	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 36.3	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 7.1	▲ 40.0
小 売 業	▲ 33.3	▲ 15.1	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 54.9	▲ 20.0	▲ 46.2	▲ 35.4	▲ 20.0	▲ 36.6	▲ 20.0	▲ 24.2	▲ 44.4
飲 食 業	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 36.9	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3
サービス業	▲ 16.7	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3	4.3	1.9	▲ 2.1	▲ 6.4	▲ 7.0	4.0	▲ 14.3	▲ 6.4

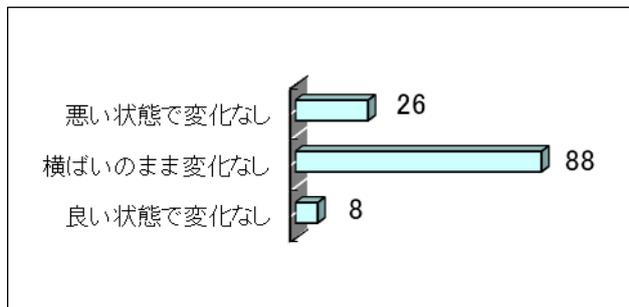


◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○平成31年2月～平成31年4月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ6.58ポイント増加し12.58%、「下降しそう」が4.71ポイント減少し6.62%となった。業種別の見通しDIは建設業(10.0)、製造業(12.0)、卸売業(▲6.7)、小売業(0.0)、飲食業(0.0)、サービス業(10.6)であった。

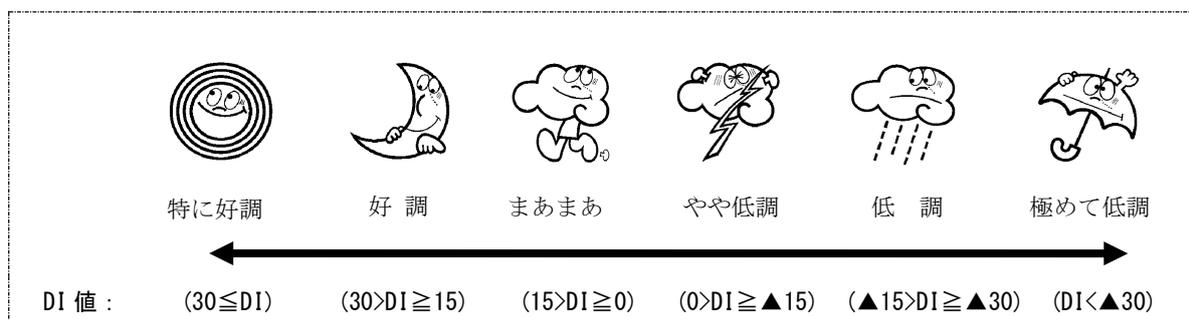
➡「上昇しそう」では「年度末に向けて売上高増進を図る指示を発令したため上昇見込みであるため」「国の9000億円規模の補正に伴う特需が見込めるため」(建設業)「例年通りではあるが、どうしても1月は売上が底になってしまうので、今後は回復が見込めるため」「需要増加が見込める期間であるため」「受注量の増加が見込めるため」(製造業)「税務申告が始まるため、来店頻度が増える見込みであるため」「気温の上昇に伴い、人出が見込めるため」(小売業)「春休み、GW前半に上昇が見込めるため」(飲食業)「選挙用の写真の需要があるため」「3月以降は観光シーズン、歓送迎会シーズンに入っていくため」「ディーラーの決算のため新車販売の増加と、3、4月の車検在庫数の増加が見込めるため」「春は外国人観光客が増えるため」「年度末、新年度となるため」「新しい集客法での効果が期待できるため」(サービス業)といった声が寄せられた。



➡「下降しそう」では「大口の受注予定がないため」(建設業)「先行きが不透明な部分が多くなっているため」(卸売業)「景気の回復が実感出来そうもないため」「年明けから客数が減少傾向にあるため」(小売業)「12、1月がよかった分、しわ寄せが起きるため」(飲食業)「増加傾向であった職業訓練受講者数が微減に転じたため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



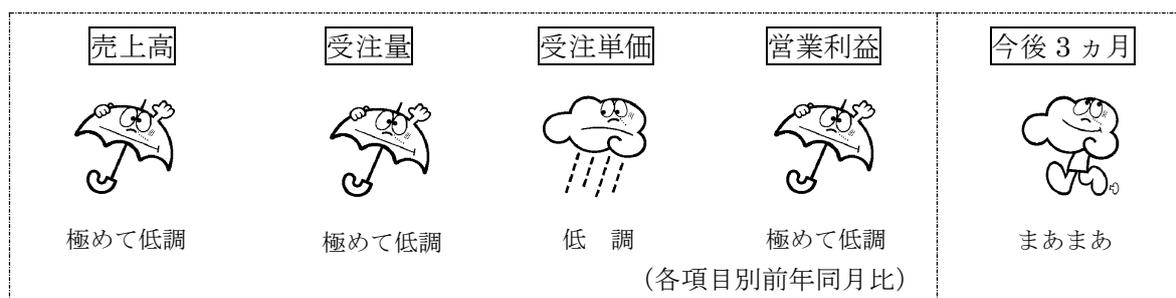
【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	0.0	14.2	16.6	4.6	▲4.6	▲8.7	4.3	0.0	16.0	8.7	14.3	0.0	▲10.0
受注量	▲8.7	19.1	▲9.5	▲4.5	0.0	0.0	13.1	9.1	12.0	▲8.7	9.5	13.7	▲10.0
受注単価	▲8.7	▲9.5	▲5.5	▲4.5	0.0	▲8.7	0.0	4.6	8.0	▲4.4	4.8	4.6	5.0
営業利益	▲13.1	▲14.3	▲22.2	▲22.7	▲13.6	▲21.7	▲17.4	▲22.7	▲12.0	▲13.1	▲4.7	0.0	▲15.0
見通し	8.7	14.3	0.0	4.5	18.2	13.1	8.7	9.1	12.0	4.4	4.8	13.7	10.0

<経営者の目・見方・etc>

- 管工事
 - ・売上は増えたが、受注額が変わらず、コストがかかるので営業利益になっていない。現受注方式では変わらないと思う。仕組みが変わらなければ利益は変わって行かないと思う。
- 建築工事
 - ・2月以降にある受注は小口のみで、年度末の公共入札があればと期待する。
 - ・職人数が足りないので工期が延びがちとなっている
- 鉄工
 - ・前年度より1月は量、売上、仕入、利益が減少した。1年間で波があり、2～5月はすべて良くなる見込みである。
 - ・地元工事に関して、冬場の1～3月はあまり大きな物件は動かないようである。
- 総合建設
 - ・2月の国の補正に伴い、県も300億円の補正を決定した。松本建設事務所にはその内16億円を配分する。年度内の発注となる。また、県債による舗装工事の発注8件も年度内に見込み、特需となる見通しである。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	▲ 4.3	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0	0.0	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 16.6	▲ 19.1	▲ 36.0
受注量	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 9.5	8.7	0.0	▲ 4.5	4.6	13.0	▲ 4.0	8.7	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 40.0
受注単価	▲ 8.7	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 13.0	▲ 5.0	▲ 18.2	▲ 13.7	▲ 13.1	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 16.7	▲ 9.5	▲ 16.0
営業利益	▲ 4.4	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0	▲ 18.2	18.2	13.0	0.0	8.7	▲ 11.1	▲ 23.8	▲ 32.0
見通し	8.7	9.5	▲ 14.3	▲ 8.7	15.0	▲ 4.6	0.0	8.7	▲ 4.2	▲ 8.7	▲ 11.1	▲ 14.3	12.0

<経営者の目・見方・etc>

印刷

- 中国による古紙の高価買い占めにより、再生紙の価格上昇だけではなく、品目出荷制限の通知が来ている。地元への社会貢献をしていない印刷会社が「顔で仕事を取る」ことをせずに「低価格で仕事を取る」傾向が強い。次世代経営者、若手経営者が地元地域のボランティア活動で顔を見せずに、大都市の方で団体に所属している傾向もある。それで大都市から仕事とお金を取ってくるのは地域としても大歓迎だが、地元の仕事と人間関係をデフレ価格で破壊されるのは地元活動する企業としては御免蒙りたい。

機械

精密機器

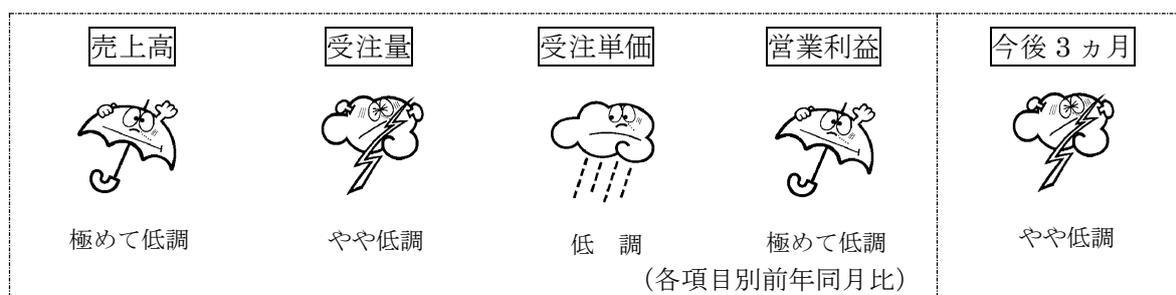
- 業界内では、消費税増税による販売強化の動きが見えてきた。
- 業界としては様子見ムードが支配的ではあるが、実際には底堅い推移となっている。

小型情報機器組立

紙器

- 米国、中国のせめぎ合いで先が見えない。
- 原材料の値上げが、昨年と本年1月と2度もあり、お客様には説明を行っているがなかなか理解を得られず苦慮している。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	6.7	12.5	7.7	▲15.4	26.6	▲26.7	▲18.2	▲30.0	▲54.5	▲7.2	▲38.5	▲21.4	▲40.0
販売客数	0.0	0.0	▲15.4	▲7.7	0.0	▲6.7	0.0	▲10.0	▲27.3	▲14.3	▲15.4	▲14.3	▲13.3
販売客単価	6.7	18.7	23.1	0.0	▲6.6	▲6.7	▲9.1	10.0	0.0	14.3	▲7.7	0.0	▲20.0
営業利益	0.0	▲37.5	▲23.1	▲15.4	▲6.6	▲6.7	▲18.2	▲10.0	▲36.3	▲7.2	▲30.8	▲7.1	▲40.0
見通し	▲13.3	▲6.3	0.0	▲7.7	6.7	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	▲7.7	▲14.3	▲6.7

<経営者の目・見方・e t c>

- 土産品
 - ・年末年始中は天候に恵まれ土産品の売れ行きが好調であった。1月としては例年になく滑り出しが良く、今後も期待したい。
- 青果
 - ・当月は野菜、果実共に西南暖地が産地となる作物に関し、その産地が低温ではあったものの、干ばつ気味ではほぼ順調過ぎる程の生育だった。また、消費低迷だった事もあり、単価安で推移した。
- 金属製品
 - ・依然、建築関連は好調で、先々の案件も多数出ているが、輸送問題、副資材の納期遅れ等、問題は山積みである。今後、高炉メーカーをはじめ各メーカーの値上げ要請が見込まれ、製造原価への影響が懸念される。
- 機械工具
 - ・品不足の状態が続いているが、納期に時間がかかっている物も多く、先々の受注を抱えている為、その部分は来年春迄を見据えている。

4. 小売業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
低調	極めて低調	やや低調	極めて低調	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	▲33.3	▲18.2	▲11.5	▲10.7	▲38.7	▲8.0	▲30.8	▲29.0	▲10.0	▲26.7	▲13.4	▲6.0	▲29.6
販売客数	▲25.9	▲18.1	▲27.0	▲10.7	▲25.8	▲32.0	▲38.5	▲38.7	▲23.3	▲26.6	▲20.0	▲24.2	▲37.0
販売客単価	▲3.7	3.0	11.6	17.9	▲19.4	0.0	▲7.7	▲12.9	▲3.3	▲13.4	▲3.4	0.0	▲14.8
営業利益	▲33.3	▲15.1	▲26.9	▲25.0	▲54.9	▲20.0	▲46.2	▲35.4	▲20.0	▲36.6	▲20.0	▲24.2	▲44.4
見通し	7.4	0.0	▲3.9	▲3.6	3.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲9.1	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

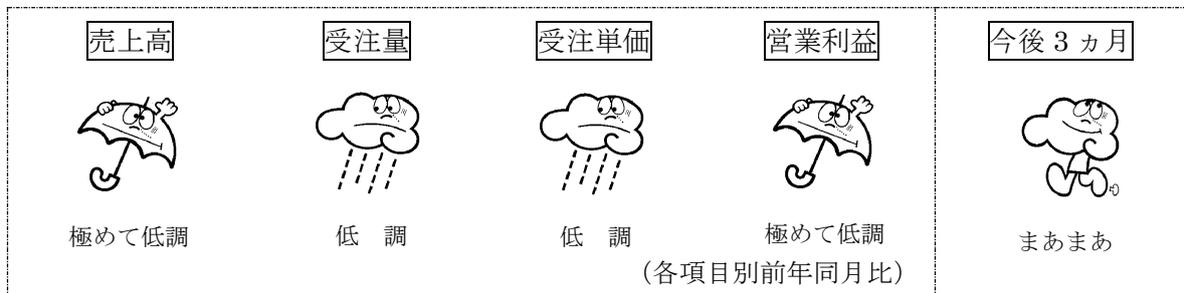
- 印章
 - ・良い物、長く使える物にお金をかける動きが見受けられ、客単価が上がった。
 - ・降雪量が少なく、人出が減少しなかったのはありがたかった。
- 印章・刃物研ぎ
 - ・厳冬期のため人出が極端に悪く、厳しい商いが続いた。
- 住宅機器
 - ・1月に入り動きが止まってしまったため、2、3月と頑張りたいと思う。
- ショッピングセンター
 - ・暖冬、ネットショッピングの拡大、スマホ決済の特典など実店舗においては逆風の環境であった。一方、冬物のセール期間中でも付加価値の高い商品は定価でも好調に推移した。顧客の価格志向は認めざるを得ないものの、一方でこだわりを持ったお客様がいらっしゃることも事実である。そういったお客様に対して、きっちりアピールすることも重要だと実感した。
- 陶磁器
 - ・降雪もなく、寒さが厳しかった昨年に比べると気温も高く穏やかな日だった。

年末年始の休日も長く、あめ市も3連休となったので、市街地は多くの人で賑わった。平成も残り100日を切り、陛下の在位30年を記念する限定品や平成を回顧するようなビジネスが動きつつある。

パン
菓子
書籍・木のおもちゃ

- ・材料の値上がりのため、なかなか製品の値上げができないジレンマがある。国の言っているようには、肌感覚として現状感じられない。
- ・観光都市である松本は観光客が少ないと街が静かであると思う。あめ市が終わってから特にそのように感じる。3月中旬まで真冬の時代を迎えそうである。
- ・「松本スイーツ」もマンネリ化しているように感じる。今月の「まちゼミ」も参加店が減少しているのか街に活気がない。
- ・子育て中の親御さんに来店していただくには、どういった展開を行っていかれば良いのか模索しながら企画を考えていきたい。売り上げはなかなか伸びていないのが現状である。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 21.1	▲ 61.1	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 5.6	▲ 35.3
販売客数	▲ 30.0	▲ 30.0	0.0	▲ 12.5	▲ 22.2	▲ 21.0	▲ 72.2	▲ 15.8	▲ 52.6	▲ 11.7	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 23.6
販売客単価	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 5.5	▲ 12.5	▲ 16.6	▲ 10.5	▲ 33.3	▲ 5.3	▲ 36.8	▲ 5.9	▲ 27.8	▲ 16.6	▲ 29.4
営業利益	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 36.9	▲ 66.6	▲ 26.3	▲ 47.4	▲ 17.6	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 35.3
見通し	25.0	5.0	5.5	▲ 6.2	▲ 5.6	21.0	0.0	▲ 15.8	▲ 10.5	17.6	11.1	▲ 11.1	0.0

<経営者の目・見方・etc>

寿司

- ・天候の影響もあつてか県外からの観光客の方が少なく感じた1月であった。今後も3月を迎えるまでは、一部天候に左右される事が予想される。
- ・例年1月の忙しいのは10日頃までで、中旬から下旬は暇になるのが通常である。しかし今年の1月は少し違い、雪も降らず穏やかな天候に恵まれ、人の動きが良く1ヵ月通して良い月であった。

料理

- ・新しい年を迎え、雪も少なく客が動くと思つたが、宴会が少なく、地元客の財布の紐が堅かった。

郷土料理

- ・宴会の減少、また一般的に単価を抑える注文の傾向であり、不景気感があつた。

仕出し料理

- ・年末の反動で静かな年明けであった。従業員の高齢化、人手不足で先行きが不透明である。日頃のお客様を大切にしていきたい。

中華料理

- ・1月2日が帰省した同級生や家族による宴会の予約が多く昼・夜共に盛況であった。年始の「2日から営業」にも慣れてきたが、従業員達は本音を言えば、「正月三が日くらいは休みたい」という思いを抱いているのではないかと感じる。

食堂

- ・正月から成人の日までは人出が多く売り上げ増となったが、その分1月後半は大

そば

きな動きはなかった。比較的天候に恵まれてよかった。

- ・元日、2日は人出があり賑やかであったが、年始以降は静かな月であった。
- ・今年は10連休に期待したい。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年1月
売上高	▲ 9.5	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3	8.5	15.4	2.1	0.0	2.3	10.0	▲ 9.5	▲ 6.4
販売客数	▲ 23.9	▲ 12.8	▲ 5.4	6.1	▲ 8.9	6.4	1.9	▲ 8.4	▲ 4.2	▲ 7.0	0.0	▲ 9.5	17.0
販売客単価	▲ 4.8	0.0	8.1	4.0	4.4	4.3	5.8	4.2	4.2	7.0	4.0	0.0	▲ 2.1
営業利益	▲ 16.7	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3	4.3	1.9	▲ 2.1	▲ 6.4	▲ 7.0	4.0	▲ 14.3	▲ 6.4
見通し	▲ 4.7	2.6	8.1	6.1	8.9	14.8	0.0	6.2	4.2	▲ 7.0	▲ 4.0	▲ 2.3	10.6

<経営者の目・見方・e t c >

自動車整備、 板金塗装	<ul style="list-style-type: none"> 降雪量も少なく、無事に正月を迎えることができた。 仕事量は平年並であったが休日が多かったため、労働時間が短く、苦しい年の始まりとなった。
旅館	<ul style="list-style-type: none"> 西山エリアは雪不足のためスキー客が減少している。特に年末年始はキャンセルが相次いだ。
温泉旅館	<ul style="list-style-type: none"> 集客力のあるイベントもなく、宿泊人員もまばらである。
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドについて、前月まではあまり動きがなく昨年に届かない状態であったが、月内でアジア圏を中心とした新規問い合わせがあり、月末に動きが出た。 結婚式検討者について、秋口はエリア全体で停滞気味であったが、12、1月と復調傾向である。 宿泊は弱含みであった。インフルエンザで宴会が取り止めになったケースが昨年より多かった。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> 街中は新年の催し等が行われたため賑わい、客数は前年並であったが、売上高は前年を僅かに上回った。
写真	<ul style="list-style-type: none"> コストダウンに努めている。
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> 軽減税率の対応や運用サポートも合わせ、現状手が足りないという状況である。当社の周囲を鑑みてみると、どこも人手不足な様子が否めない。 ポイントは、昨今のクラウド利用や新しい開発ツールを使用して、既成のパッケージでは実現できない顧客の業務プロセスを一新する動きがある所である。
機械設計	<ul style="list-style-type: none"> 向こう3ヵ月は良い状態で続く見通しである。 3ヵ月先はどうか不透明である。 中国の影響は出て来ている。
ホームクリーニング グ・リネンサプライ	<ul style="list-style-type: none"> ホームクリーニングにおけるキャッシュレスの対応が加速しそうである。

ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・来店数、売上高ともに前年並みであった。 ・インフルエンザが流行しており、スタッフの健康管理に注意が必要である。
リラクゼーション 美容業	<ul style="list-style-type: none"> ・閑散期だが、何とか頑張って業績を維持した。 ・1月は年末年始の休みの関係で営業日数が少なく、お客様も落ち着いてしまう為売り上げが下がる傾向にあるが、それによる売り上げの低下はなく、昨年より良い結果となった。
ネイル	<ul style="list-style-type: none"> ・1月はネイル技能検定2,3級が全国で開催された。2019年最初の検定試験だったが、受験生はとてもしっかり頑張っていた。また、今年から検定試験の筆記試験が北京語、英語、韓国語で受験可能となる。ネイル業界は海外の受験生への対応も充実してきている。
マナー講師	<ul style="list-style-type: none"> ・年の初めということもあり、新しい試みとしてや、寒い時期で仕事がひと段落するこの時期に社員教育や接遇に力をいれてもらえる企業や商店があり、「人財」を意識していただけている。「人」への教育の大切さに少しずつ力をいれていただける動きはとても良いことと感じる。
測量・建設コン サルタント業	<ul style="list-style-type: none"> ・例年1月までは受注が多いのだが、仕事が取れなかった。2月、3月年度末に向けて仕事が欲しい所である。 ・協会が人材確保、育成のため、教育機関と協定を結んだ。人材対策に期待している。

